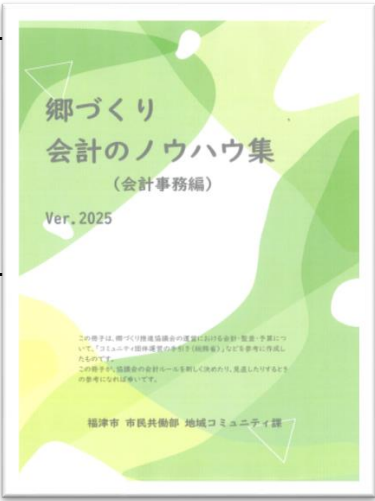


実行プラン進捗状況

(令和6年度から実施、または実施前提で準備する取組み)

柱1 郷づくり推進事業交付金のあり方

方策	具体的な方策	取組み内容	令和6年度 進捗状況
交付金の使途や会計処理ルール等の見直し	「会計処理の留意事項」見直し	交付金の使途について禁止事項を示した上で、協議会の裁量を拡大する。また、会計処理ルールを簡略化し、協議会の負担を軽減する。	■ 飲食費の上限額を撤廃して、協議会判断で購入できるようにした。また、市への実績報告時、領収書コピーの提出を廃止することで、事務負担の軽減を図った。 ■ 「会計のノウハウ集」を作成して、交付金の取扱いルールや会計処理方法を協議会内でも共有しやすいようにまとめた。また、会計処理の手間を省いたり入力ミスを防ぐため「エクセル会計簿」を作成した。
	余剰金の繰越上限額の見直し	余剰金100万円の繰越上限額を緩和して、協議会の柔軟な予算運用を後押しする。	余剰金100万円の繰越上限額の緩和は見送った。 積算方法に不公平感がある中で繰越上限額の緩和だけ先行して実施するのは得策ではないと判断した。R8年度積算方法の改定と合わせて検討する予定。
	積立制度の導入	単年度予算では実行が難しい事業費や備品購入費の積立制度を導入する。	R7年度から積立制度を導入予定。高額備品購入や記念事業の実施に活用できる（上限200万円）。
事務局員給与の上限撤廃	本給の上限額撤廃	協議会が事務局員の能力や経験年数に応じて賃金を設定できるように、給与の上限を撤廃する。市は、県最低賃金の賃金動向をもとに時給の目安を示す。	令和5年度から本給の上限額を撤廃して、協議会判断で賃金を設定できるようにした。市は、会計年度任用職員1級6号級を目安に交付金を交付している。R8年度積算方法の改定にあわせて取扱いを確定させる予定。
	時間外手当の支給	時間外労働が発生する地域について、市は基準額を設定し、時間外手当相当額の交付金を交付する。その際、事務局員の業務を明確にした上で必要最低限の時間外労働となるように、協議会に業務量の整理を促す。	R5年度から暫定的に導入し、時間外労働実績に応じて交付している（現在、3地域が導入中）。R5～7年度の時間外労働実績をもとに、R8年度積算方法の改定にあわせて取扱いを確定させる予定。
地域予算制度の周知	地域予算制度の周知・成功事例の情報提供	協議会が制度を活かして予算配分できるように、市は制度の趣旨を周知する。また、予算配分の成功事例を情報提供する。	■ R7年4月自治会長説明会で、これまで説明していなかった地域予算制度の内容を盛り込んで説明する予定。 ■ 1/31代表者会議の情報交換の中で、自治会交付金の配分額見直しを検討している地域から、取組み内容を共有してもらった。



実行プラン進捗状況

(令和6年度から実施、または実施前提で準備する取組み)

柱2 郷づくり交流センター等の拠点のあり方

方策	具体的な方策	取組み内容	令和6年度 進捗状況
認知度向上の取組み	情報交換会の開催	情報交換会を開催し、拠点に立ち寄りたくなるような魅力的な活動事例の紹介や、拠点の認知度向上につながる取組みを共有する。	認知度向上に向けて、代表者会議や事務局員会議の場を使って情報交換会を開催した。 ■10/2「利用しやすい郷づくり交流センターに向けた情報交換会」を開催。 拠点を知ってもらったり来てもらえるキッカケになった取組みを情報交換した。 ■1/31代表者会議で、郷づくりや拠点の認知度アップにつながる取組みを紹介し合った。 取り組んだ活動は、事例集にして各郷づくりに配布、HPへ掲載、Instagramに投稿。
	S N S等を活用した郷づくりイベントのP R	市公式Facebook等を活用して郷づくりの取組みやイベントを発信する。	12月に郷づくり支援系のInstagramを開設。 協議会からも掲載情報を提供してもらい、事業やイベント情報の発信を始めた。 なお、市公式アカウント（LINEやFacebook）は、投稿申請に時間がかかり、郷づくり以外の情報も載せる関係上更新が低頻度になるため、地域コミュニティ課で独自にInstagramを開設することにした。
	拠点に来てもらえるような取組みの紹介	拠点に児童生徒やその保護者に来てもらえるような取組みの情報を提供する。	実際に、郷づくりで行って効果的だった取組みや、他自治体で行っている取組みの情報を収集し、積極的に提供した。 ■10/2「利用しやすい郷づくり交流センターに向けた情報交換会」を開催。 拠点を知ってもらったり来てもらえるキッカケになった取組みを情報交換した。 ■1/31代表者会議で、郷づくりや拠点の認知度アップにつながる取組みを紹介し合った。市からも他自治体の取組み事例を紹介した。



★令和6年度郷づくり推進協議会の活動事例集より★



【上西郷】スケッチコンクール
子どもたちの作品を交流センターに展示



【福間】海岸松林ウォークinふくま
松林の素晴らしさや保全の大切さを皆で
歩いて体感



【勝浦】P Rカレンダー
地域内外から集まった写真を掲載して、
郷づくりをP R



【神興】K I Z U N Aランチ
地域の人、子ども達や保護者が一緒になっ
てランチで交流

実行プラン進捗状況

(令和6年度から実施、または実施前提で準備する取組み)

柱3 人財育成・確保

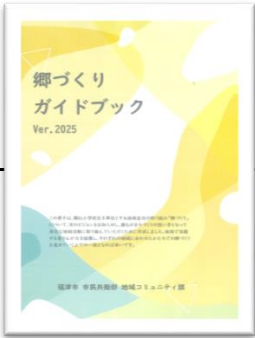
方策	具体的な方策	取組み内容	令和6年度 進捗状況
協議会のより良い運営のための支援	講座や意見交換会の開催	外部講師による講座、協議会同士の意見交換会、大学や地域住民を招いた意見交換会を実施し、多様な人たちが活躍できる運営の視点を学ぶ機会をつくる。	■代表者会議 市からの議題（依頼・説明）を減らして、協議会同士の情報交換の時間を大切にした。テーマを決めてもらい3回情報交換を実施。 【テーマ】郷づくりの人財確保・育成について／費用弁償について ■事務局員会議 情報交換の機会をつくり、取組みのヒントになる情報を共有した。 【テーマ】研修職員の活動内容／登下校の見守り状況／部会員や部会長になるきっかけ／事務局員業務の引継ぎ方法・業務分担／事務局員不在時や休暇時の対応方法／交付金の自治会配分 ■外部講師による「人財育成・確保のための講座」開催に向けて、R7年度県補助事業を申請中
	協議会主催の講座に対する支援	協議会が役員向けに組織体制や運営の視点に関する講座を開催できるように、講師紹介等の情報提供をする。	該当するケースはなかった。
	参画しやすい仕組みづくりの提案	時間設定、オンライン参加、業務の棚卸し、限定的な関わり、子育て世代や現役世代がやりたいことを支える場づくり等、参画への入口を広げるための情報を提供する。	事務局員会議でミニ講座を実施した。 ■キッカケラボ主催「地域デビュー講座ミニ版」 地域デビュー講座の受講生がどんなことを学んで地域に出ていくか、受け入れる側の視点を学ぼう。 ■人権政策課「ミニミニ人権研修」 「自分に思い込みはないか？」少し振り返ってみて、関わりやすい地域づくりとは何かを考えてみよう。
	先進事例・統計データ等の情報提供	地域活動の参考情報として、他自治体や他協議会の先進事例や市が保有する統計情報を提供する。	■情報提供 総務省のR5年度地域運営組織に関する調査研究報告書／市民意識調査集計結果（R6年2月実施分）／郷づくりHPアクセス数（地域ごと）／人財育成・確保に関する事例紹介（1/31代表者会議資料） ■地域コミュニティに関する講演会 案内 福岡県地方自治研修所「私から出発するまちづくり～コミュニティ形成のあり方を問い直す」／小規模多機能自治推進ネットワーク会議「関東ブロック・地区自慢大会」
キッカケラボの事業の活用 ※継続実施	キッカケラボ主催の講座や交流会等への参加を促す	多様な人や団体とつながる機会として、キッカケラボ主催の講座や交流会等の情報を協議会へ提供し参加を促す。	講座や交流会等の情報を以下機会を通じて提供した。 【手段】 ①事務局員会議 ②ラボスタッフによる拠点訪問 【案内事項】 市民活動講座／バスクール3期生募集／ふくつ地域デビュー講座／キッカフェ／ふくつたいけんプログラム／ふくつウェルビーイング大賞 等  ↑ 郷づくり活動もエントリーいただき開催した ↑ ふくつウェルビーイング大賞
	地域活動に関する団体やイベント等の情報の提供	キッカケラボに登録されている団体情報や、キッカケラボが把握しているイベント等の情報を定期的に協議会へ提供する。	ラボに登録している団体情報等を以下機会を通じて提供した。 【手段】事務局員会議 【案内事項】登録団体一覧・出前情報／ふくつプレイヤーズ 等 ↓ 市内活動やラボ事業を ↓ 紹介するラボ公式LINE
	コネクターとの相談連携	市が協議会から相談を受けた内容等について、必要に応じてコネクターと相談連携しながら対応する。	コネクターがラボ窓口・電話・メール・拠点への訪問等で随時対応した。
	地域活動に関心のある人財と協議会をつなぐ機会の提供	キッカケラボの事業を通じて地域活動に関心を持つ人と協議会とを、双方の希望に応じてマッチングする。	地域に関心がある方や協議会からの相談に基づいて、双方をつなぐ機会を提供した。また、ラボ主催の「地域デビュー講座」受講後、協議会へつなぐ機会があることから、事務局員向けに「地域デビュー講座ミニ版」を実施した。 

実行プラン進捗状況

(令和6年度から実施、または実施前提で準備する取組み)

柱4 市の関わり方

方策	具体的な方策	取組み内容	令和6年度 進捗状況
郷づくりを推進する条例の制定		郷づくり推進に特化した条例を制定する。	6/24庁議で「郷づくり推進条例（仮称）」制定を決定。 R6年度は準備期間として情報収集を中心に行った。条例素案作成に向けて、代表者会議委員に条例概要を説明し、条例に求めること、条例に盛り込みたい内容をヒアリングした。
対話の場づくり	代表者会議のあり方の見直し	各協議会の意見を聴きながら、設置要綱に規定する活動内容や選出委員のあり方などを検討した上で、必要な見直しを行う。	本来の代表者会議の趣旨に立ちもどり、協議会相互の意見交換や、課題解決に向けた情報交換の時間を大切にした。委員皆さんに「代表者会議でやりたいこと」「話し合いたいこと」を決めてもらい、下記のとおり実施した。 ・9/5 実行プラン説明会（会長のみ） ・10/1 郷づくり（協議会・自治会等）の後継者について ・11/29 費用弁償について ・1/31 人財育成について、各地域のR6年度活動紹介
	未来志向な場の設定	協議会と市との未来志向な対話の場をつくり、課題解決に向けて一緒に考える機会を持つ（年1回）。	協議会と市の未来志向な対話の場は個別に作れなかったが、代表者会議などの機会を活用して、課題解決に向けて一緒に考える機会を持つことができた。
	協議会同士のつながりづくり	取組み自慢大会、活動分野ごとの実践交流会、拠点見学会を開催し、良いところや課題を共有し合い、横のつながりを促進する。	■拠点で会議を開催し、他地域の拠点に触れてもらう機会をつくった。 ・代表者会議 …9/5実行プラン説明会（神興）、1/31代表者会議（宮司） ・事務局員会議 …8地域の拠点を一巡、キッカケラボ ■1/31代表者会議で、各地域のR6年度活動を紹介し合い、人財育成・確保や郷づくりの認知度向上につながる取組みを共有し合った。
職員の学び直し		職員が郷づくりや地域への伴走支援について理解を深めるため、経験年数の節目ごとの職員研修を実施したり、活動者の声を聴く機会を設ける。	次年度の研修実施に向けて調整中
地域に関わる職員の役割の明確化	地域担当職員の役割の明確化	地域と市で協定を結ぶことなどを含めて検討し、職員の役割を明確にして共有する。	R6年度はこれまでの取組みを継続して、郷づくり活動や会議への参加、関係部署との連絡調整などを行なった。今後、協議会や地域担当職員の意見を聞きながら、地域担当職員の役割を検討していく予定。 郷づくり推進条例（仮称）に、「市職員の関わり方」などを盛り込むことも合わせて検討する予定。
	研修職員の役割の明確化	研修目的をより明確にするとともに、研修期間終了後の地域との関わりを継続する支援のしくみをつくる。	R6年度はこれまでの取組みを継続して、郷づくり活動への参加、郷づくりのP R活動等を行なった。今後、協議会や地域担当職員の意見を聞きながら、研修職員の役割を検討していく予定。
郷づくりガイドブックの作成		郷づくりの活動の参考に、郷づくりの変遷や、各地域が実践した取組みをまとめたガイドブックを作成する。	協議会活動の参考にしてもらえるように、郷づくり制度、協議会事業、活動事例などの情報を盛り込んだ「郷づくりガイドブック」を作成した。



実行プラン進捗状況

(令和6年度から実施、または実施前提で準備する取組み)

柱5 その他

方策	具体的な方策	取組み内容	令和6年度 進捗状況
SNSの利用促進等、PRツールの増設	講座や意見交換会の開催	講師を招き、見てもらえる広報の作成方法を学ぶ講座の開催や、各協議会のSNS活用の取組みを紹介し合う意見交換会を開催する。	■各郷づくりにSNSの活用について聞いたところ、一部の郷づくりでは、協議会や部会でInstagramやFacebookを開設していることが分かった。これを受けて、地域コミュニティ課で12月にInstagramを開設。更新は地域コミュニティ課で行うことで、SNSに抵抗がある郷づくりでも情報発信できるようになった。協議会から掲載情報を募集し、取組みの紹介やイベント情報の発信を始めた。 ■外部講師による「情報発信力講座」開催に向けて、R7年度県補助事業を申請中
	郷づくりに関するPRツールの増設	「郷づくり」の内容を分かりやすくまとめた、手に取りやすいパンフレットを作成する。また、イベント時に郷づくりのPR機会を提供する。	■「郷づくりとは」何か？を簡単にまとめたチラシを作成した。パンフレットは作成中。 チラシは自治会加入促進時に活用していただけるように、全自治会長への配布や市公式HPに掲載した。また、このチラシは、自治会加入促進チラシと併せて市民課で転入者に配布している。 ■「広報ふくつ」裏表紙を活用し、郷づくりのPRを行った（年4回）。各郷づくりの活動を掲載することで、全市民に「郷づくり」の存在や郷づくりがどういったことを行っているのかをPRすることができた。
自治会の負担軽減策の提案		負担が大きい活動者（役員）に対する役割分担の見直し、イベントや会議の統合、限定的に関わる仕組み、子育て・現役世代のやりたいことを支える場づくりの情報等を提供する。	■「自治会加入促進の手引き」を更新。役員の負担軽減や限定的に関わる仕組みなど、自治会活動に必要な視点を掲載した。 ■自治会活動調査を実施して、負担軽減の取組み・デジタルツールの活用について・住民情報の把握方法などをアンケートした。 年度内に集計結果を共有する予定。 ■外部講師による「自治会加入促進講座」開催に向けて、R7年度県補助事業を申請中
全市的な自治会加入促進	自治会の必要性・活動内容・加入への窓口を知ってもらう取組みの実施	市HPや自治会加入促進チラシの内容等の見直しに加え、市公式LINEや市広報紙等を活用して、自治会加入促進を支援する。	■「自治会加入促進チラシ」を更新。市民課で転入者に配布中。また、自治会で活用できるように、チラシの自治会活用版を市HPに掲載中。 ■「自治会とは」何か？を簡単にまとめたチラシを作成した。チラシは自治会加入促進時に活用していただけるように、全自治会長への配布や市公式HPに掲載した。 ■外部講師による「自治会加入促進講座」開催に向けて、R7年度県補助事業を申請中
	自治会に対する情報提供	自治会運営上の課題や相談を受けた内容等をもとに、他自治体の事例や対応策の情報を提供する。	窓口、電話、メール等での相談に随時対応した。重要な相談内容は、今後職員の入替わりがあっても引き継げるように、相談対応記録等を残している。



★令和6年度郷づくり推進協議会の活動事例集より★



【宮司】語ろう会
地域のことを一緒に考える機会をつくって、
緩やかに関わる人を発掘



【神興東】ソフトボール大会
若い人たちの「ソフトボールがしたい」の声を
きっかけに実現



【津屋崎】小さな灯り展
「無理なく・楽しく・皆でつくる」を
大切に灯された灯り



【福岡南】ウォーキングチャレンジシップ
歩いて交流＆楽しく健康づくり